

イザヤ書24-25章「イザヤの黙示録」

1A 地の面の覆し 24

1B 地の背きの罪 1-20

1C 荒らされる地 1-6

2C 過ぎ去る世の楽しみ 7-13

3C ほめ歌と住民への落とし穴 14-20

2B 力ある者への裁き 21-23

2A 救いの喜びと楽しみ 25

1B 横暴な者たちの沈黙 1-5

2B 万民への宴会 6-12

本文

イザヤ書 24 章を開いてください。私たちは、13 章以降、周辺の国々に対する主の宣告の部分を読んできました。その前、6 章から 12 章までにはイスラエルとユダに対する神の言葉がありました。そして最初の 1-5 章は、エルサレムとユダのみに対する預言でした。ですから、主のイザヤに対する幻が拡がっているのが分かります。初めはエルサレムとユダ、次にイスラエル全体、それから周囲の国々です。そして 24 章から 27 章は全地、全世界を舞台にしています。ちょうどこれは、使徒の働きにおけるイエス様の約束と似ています。初めはエルサレム、ユダヤから始まり、次にサマリヤ、そして地の果てにまでイエス様の証人となるという約束でした。イザヤも、その地域から世界への拡大する神の幻を受け取っています。今日は、前半の 2 章分を学んでいきます。

1A 地の面の覆し 24

1B 地の背きの罪 1-20

1C 荒らされる地 1-6

¹ 見よ。主は地を荒れ果てさせ、その面をくつがえして、住民を散らされる。² 民は祭司と等しくなり、男奴隷はその主人と、女奴隷はその女主人と、買い手は売り手と、貸し手は借り手と、債権者は債務者と等しくなる。³ 地はすっかり荒れ果て、すべてかすめ奪われる。主がこのことばを語られたからである。⁴ 地は嘆き悲しみ、衰える。世界はしおれ、衰える。地の最も高貴な人たちもしおれる。⁵ 地はその住民の下で汚されている。彼らが律法を犯して定めを変え、永遠の契約を破ったからである。⁶ それゆえ、のろいは地を食い尽くし、その地の住民は罰を受ける。それゆえ、地の住民は減り、わずかな者だけが残される。

24 章から 27 章は、しばしば「イザヤの黙示録」と呼ばれています。ヨハネの黙示録が聖書の最後に載っていますが、そこには世の終わりが啓示されています。それは真新しい考えではなく、む

しろ私たちの主が初めから前もって語っておられたことです。十字架に付けられる前、オリブ山の上でもイエス様は語っておられました。「マタイ 24:21 そのときには、世の始まりから今に至るまでなかったような、また今後も決してないような、大きな苦難があるからです。」

これまで、私たちはイスラエルの周辺国における騒動を見てきました。国々の揺れ動きを見ました。ペルシアによって倒れるバビロン、そしてアッシリアによって攻められる国々を見て、彼らが自分の安定した生活、この世に安住して神に拠り頼んでいなかったことを明らかにされました。主は最後には、それをも超えて、この地上の面そのものを揺り動かします。人が生きていることを保障する、最も安定していなければいけない地面、これを揺り動かされるのです。

これは、地上にいる者たちに根源的な神からの問いかけになっています。私たちは自分を保たせているのは、社会的地位、経済的地位、また宗教的習慣です。自分が生きていることを、これらの立ち位置によって確認します。しかし、多くの人が問わないのは、人は同じように裸で生まれ、同じように何も財産を持っていくことができず死んでいくことです。そこにおいては、全く差別がありません。しかし、この真実に目を意図的に向けないのです。そこで主は、地の面を揺り動かされる時に、社会的な地位の違い、経済的な地位の違い、そして宗教的な位置の違い、これらを無くしてしまわれます。大きな揺れの中で、だれもが同じ、神の前で裁きを受けなければいけない者なのだ、ということを教えられるのです。最後の審判において、そのことを神は示しておられます(黙示 20:11-12)。

そして、その理由が大事です。5 節がそれで、「地はその住民の下で汚されている。彼らが律法を犯して定めを変え、永遠の契約を破ったからである。」とあります。人にとって、いろいろな課題がありますが、何が最も大事なことなのか、それは主を知り、この方の言葉を知ることです。この関係に立ち戻るために、主はあらゆることを行なわれています。その最後が地を揺り動かすことなのです。恐ろしいのは、神の裁きの激しさではありません。そうではなく、これだけはっきりした徴を与えられているのに、それでも人間は全能者に反抗することです。黙示録には、大患難において激しい災いを下されることが書かれています。その中での人々の反応が次です。「16:9 こうして人々は激しい炎熱で焼かれ、これらの災害を支配する権威を持つ神の御名を冒瀆した。彼らが悔い改めて神に栄光を帰することはなかった。」人が全能者に向ける心の頑なさ、高ぶりが人を滅ぼす第一原因です。

そして、「地の住民は滅り、わずかな者だけが残される。」とあります。大患難の後にはわずかな者たちだけが地上に残ります。今も、戦争によって、踏みつけられる蟻のように、人のいのちが蹂躪されています。終わりの日には、比べ物にならないほどの人が殺されていき、わずかな者たちだけが残ります。

2C 過ぎ去る世の楽しみ 7-13

⁷ 新しいぶどう酒は嘆き悲しみ、ぶどうの木はしおれ、心に喜びのある者もみな、うめく。⁸ 陽気なタンバリンの音はやみ、はしゃぐ者たちの騒ぎも消え、陽気な竖琴の音もやむ。⁹ 歌いながらぶどう酒を飲むこともなく、強い酒も、飲む者には苦い。¹⁰ 都は壊されて荒れ地となり、すべての家は閉ざされて入れない。¹¹ 街には、ぶどう酒はなく、哀れな叫び声がある。すべての喜びは薄れ、地の楽しみは取り去られる。¹² その都にはただ荒廃だけが残り、城門は打ち砕かれて荒れ果てる。¹³ まことに、大地の真ん中で、諸国の民の間で、オリーブを打ち落とすようなことが、ぶどうの収穫の後に 取り残しの実を集めるようなことが起こる。

世の楽しみが終わります。黙示録 18 章の終わりにも、大きな都バビロンが滅ぶので人々の楽しみが過ぎ去ることが書かれています。このように陽気に楽しむことが悪いことではありません。もちろん酒乱や遊興は肉の行ないですが、神の国では大きな宴会が設けられる預言が後で出てきます。ここでの問題は、このような世の楽しみによって神を覚えないということです。その楽しみによって、神を神としないのであれば、裁きはこれらの楽しみを取り除くことなのです。

3C ほめ歌と住民への落とし穴 14-20

¹⁴ 彼らは声をあげて喜び歌い、西の方から主の威光をたたえて叫ぶ。¹⁵ それゆえ、東の国々で主をあがめよ。西の島々で、イスラエルの神、主の御名を。

大患難が終わる時、主が地上に戻られる時、選ばれた民を集められます。イエス様が言われました、「マタイ 24:30-31 そのとき、人の子のしるしが天に現れます。そのとき、地のすべての部族は胸をたたいて悲しみ、人の子が天の雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来るのを見るのです。人の子は大きなラッパの響きとともに御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで四方から、人の子が選んだ者たちを集めます。」イスラエルの民は世界中に離散しています。大患難において、彼らの多くも殺されますが、それでも残された者たちは、来臨の主イエスによって救われます。そして、世界のどこにいても、彼らはエルサレムに再び集められるのです。その彼らが、東の国々からも西の島々からも、至るところで主をほめたたえているのです。

そしてまた、ここには大患難時代を生き抜いたわずかな異邦の民もいることでしょう。その中には、イスラエルの神を認め、御国に入ることの許された人々もいます。その彼らが世界の各地で主をあがめています。

この喜びの歌は、今の私たちキリストを信じるすべてが共有できる歌です。この世界がいかに暗くならうとも、私たちには救い主であられるイエス様の希望があります。むしろ、終わりに近づけば近づくほど、主なる神のみが救う方であること、この方だけが人々が信ずべき神であることを知るように、神が仕向けておられます。私たちが、この世とは別の反応をすることによって、その違い

がさらに浮き彫りになるのです。私たちが、一同が集まって賛美する時に、それを感じるでしょう。多くの人々が集まって賛美するなら、尚更のことです。

¹⁶ 地の果てから、私たちは、「正しい方に誉れあれ」というほめ歌を聞く。しかし私は言った。「私はだめだ、だめだ。ああ、悲しい。裏切り者が裏切った。裏切り者が裏切り、裏切った。」¹⁷ 地上の住民よ。恐怖と落とし穴と罠があなたに臨む。¹⁸ その恐怖の叫びから逃げる者は、その落とし穴に落ち、落とし穴から這い上がる者は、その罠に捕らえられる。天の窓が開かれ、地の基が震えるからだ。¹⁹ 地は割れに割れ、地は破れに破れ、地は揺れに揺れる。²⁰ 地は酔いどれのようによろめき、仮小屋のように揺れ動く。地の背きはその上に重くのしかかり、地は倒れて、再び起き上がれない。

主を信じる者たちには、信仰によって義と認められた者たちに与えられた誉れを受けます。けれども、預言者イザヤの思いはとても複雑でした。主の御名を呼び求める喜びに共感できる一方、これから襲ってくる地上にいる者たちへの災いを思うと、至ってもいられない、嘆き悲しんでいるのです。そして、地上にいる者たちは逃れようにも逃れることができません。全地が揺れ動くのですから、逃げようと思ったらその逃げたところにも罠があるわけです。

ここは、霊的に今も同じでしょう。人々が、主なる神、救い主以外のところに何かを求めるなら、またその求めたものが自分にとっては罠となります。お金による安心を求めたら、お金が罠となります。異性との関係を求めたら、その男、または女が罠となります。

2B 力ある者への裁き 21-23

²¹ その日、主は天では天の大軍を、地では地の王たちを罰せられる。²² 彼らは、囚人が地下牢に集められるように集められ、牢獄に閉じ込められ、何年かたった後に罰せられる。²³ 月は辱めを受け、太陽も恥を見る。万軍の主がシオンの山、エルサレムで王となり、栄光がその長老たちの前にあるからである。

「その日」という言葉が出てきました。主が最終的にご自分のことを完了させる、ご自身で定められた日です。主は、地を揺り動かし、また天をしおれさせた後に、天においても、地においても力ある者たちを罰せられます。

天においては、神に反抗した悪の勢力があります。黙示録 12 章において、竜つまりサタンとそれに従う三分の一の天使を引きつけて、天使長ミカエルとの戦いで敗れ、地上に落とされることが書かれています。そして主が来られると、サタンは底知れぬ所に鎖でつながれます。「黙示 20:1-3 また私は、御使いが底知れぬ所の鍵と大きな鎖を手にして、天から下って来るのを見た。彼は、竜、すなわち、悪魔でありサタンである古い蛇を捕らえて、これを千年の間縛り、千年が終わるまで、これ以上諸国の民を惑わすことのないように、底知れぬ所に投げ込んで鍵をかけ、その上に

封印をした。その後、竜はしばらくの間、解き放たれることになる。」ここに、彼らが牢獄に閉じ込められ、地下牢に入れられることが書かれています。底知れぬ所に千年間いるのです。千年後に、火と硫黄の燃える池に投げ込まれます。

そして、「地の王たち」とありますが、彼らも同じように再臨の主によって罰せられ、ハデスに下り、千年後に最後の審判によって、火と硫黄の池に投げ込まれることになります。大患難において、地上の王たちは反キリストの誘いによって、ハルマゲドンに集結します。そして、最終的に再臨のキリストと戦いを交えます(黙示 19:19)。反キリストともう一人の偽預言者は、その戦いに負けた後で直接、火と硫黄の池に投げ込まれます。彼らの仕業は他の王たち以上に悪いもの、反逆を指揮した罪で重かったからです。

ところで、生き残った者たちについてわずかな者たちだけが残ることについてお話しました。マタイ 25 章 31 節以降を読みますと、ただ生き残っただけでは神の国の中に入ることはできないことを教えてくれています。羊と山羊を選り分けるように、国々を右にそして左に選り分けます。そして弱い者、迫害された者、貧しい者、事欠いていた者たちに良くしてあげた者たちは、イエス様は彼らをわたしの兄弟と呼ばれて、ご自身にしたということで御国の中に入れます。そうでない者たちは、永遠の刑罰の中に入ると言われます。この大患難の場では、それら弱くされている者たちとは迫害を受けている選ばれた民、ユダヤ人の残りの者たちでありましょう。イエス様の肉の兄弟です。いずれにしても、自動的に御国に入るわけではないこと、必ずすべての人が御子の前に立って、この方に何をしたのかという物差しによって、御国に入るのか永遠の地獄に投げ込まれるのかが決まるのです。

そしてイエス様が、地上に戻って来られ、エルサレムから君臨されます。「月は辱めを受け、太陽も恥を見る。」という表現がとてもユニークがありますが、それは天における栄光と言え、太陽の光、月の光ですが、これらさえ暗くなるような、何の輝きも見えなくなるような、主ご自身の栄光の輝きがエルサレムを満たすからです。なんとというすばらしい光景でしょうか！私たちの間でも、キリストがこれだけの輝きを持っていれば幸いですね。誰かがどうしたのか、ということではなく、主ご自身のすばらしさだけがほめたたえられることを願います。

2A 救いの喜びと楽しみ 25

そして 25 章です。ここから、主がエルサレムに戻ってこられて、そこで主イエスご自身が王座に着かれて、神の国が始まります。御国が始まったことを驚き、賛美しているのが 25 章であります。

1B 横暴な者たちの沈黙 1-5

¹ 主よ、あなたは私の神。私はあなたをあがめ、御名をほめたたえます。あなたは遠い昔からの不思議なご計画を、まことに、真実に成し遂げられました。

神の国、その祝福された国が建てられることは、数々の預言者が語り続けたことでした。アブラハムに対して、「あなたによって、すべての民族は祝福される。」との約束を与えておられました。けれどもずっと、そのようにはなっていなかった。しかし今、このようになったことを感謝して、賛美しているのです。

ここにあるように、この計画は「不思議」です。私たち人間の思うところをはるかに超えて、実現した国だからです。主がなされることは、不思議なのだということを知ることは大切です。そして真実な方です。どんなに時が経とうとも、主はご自分の結ばれた契約を忘れることは決してありません(例:レビ記 26 章 42 節)。イスラエルが反抗に反抗を重ねて、彼らが地の果てに散らされた後に、主は言われています。何千年経っても覚えておられるのです。ましてや、私たちに対して持つておられる約束は、必ず実現させていただきます。

² あなたは町を石くれの山とし、城壁のある都を廃墟にされたので、他国人の宮殿は町から失せ、もう永久に建てられることはありません。³ それゆえ、力強い民もあなたをほめたたえ、横暴な国々の都もあなたを恐れます。⁴ あなたは弱っている者の砦、貧しい者の、苦しみのときの砦、嵐のときの避け所、暑さを避ける陰となられました。横暴な者たちの息は、壁に吹きつける嵐のようです。⁵ 砂漠の日照りのように、あなたは他国人の騒ぎを抑えられます。暑さが濃い雲の陰で鎮まるように、横暴な者たちの歌は鎮められます。

祝福と平和を神は約束されていたのに、地上は騒ぎで一杯です。それは、主に服従しないで反抗している力が存在するからです。その反抗している力を抑え込み、押しつぶしてしまうのが再臨の主がなされることです。ですから、どんな横暴な国も、この方をほめたたえるしかありません。

そして、この地を弱い者、貧しい者のために備えてくださるというのが、神の御心であります。したがって、福音を信じる時に私たちが心を貧しくしなければならなかったこと、そして信じた後もこの世がかえって住みにくいところ、押しつぶされてしまうような圧力と圧迫を感じているのであれば、それは幸いであるとイエス様が言われるのです。そしてこの世の流れに乗って生きている人々は、前回のツロに対する預言のように、そして 24 章にある世の楽しみのように、それがつぶされるので涙と嘆きに変わります。(ルカ 6 章 20-26 節参照)

2B 万民への宴会 6-12

⁶ 万軍の主は、この山の上で万民のために、脂の多い肉の宴会、良いぶどう酒の宴会、髓の多い脂身と よくこされたぶどう酒の宴会を開かれる。

キリストが御国を立てられた後に、行なわれるのがこの宴会です。喜びを表し、神の救いを楽しむために、宴会を行ないます。イエス様もこのことについて、ご自身を信じないユダヤ人に語られ

ました。「マタイ 8:11-12 あなたがたに言いますが、多くの人が東からも西からも来て、天の御国でアブラハム、イサク、ヤコブと一緒に食卓に着きます。しかし、御国の子らは外の暗闇に放り出されます。そこで泣いて歯ぎしりするのです。」神の国の子らとされるユダヤ人であっても、イエスを認めない者は御国には入れず、外の暗闇、つまり地獄に行きます。けれども、異邦人であってもイエスを主と認める人であれば、ここ 6 節にもあるように万民が、あらゆる国々の人々がこの宴会にあずかることができます。

⁷ この山の上で、万民の上をおおうべールを、万国の上にかぶさる覆いを取り除き、⁸ 永久に死を呑み込まれる。神である主は、すべての顔から涙をぬぐい取り、全地の上からご自分の民の恥辱を取り除かれる。主がそう語られたのだ。

ここで万人と強調していることに注目してください。アブラハムに主が「地のすべての部族は、あなたによって祝福される。(創世記 12:3)」とあるように、イスラエルだけでなく、全ての人のために用意されています。

そして、万人の覆いを取り除いてくださるとあります。これは聖霊の働きによる者です。どんなに私たちは福音を説得しても、この世の神による覆いがあるために人々が信仰を持たないでいます。御霊が覆いを取り除いてくださり、イエスの栄光を反映させてくださるのです。「Ⅱコリ 3:16-17 しかし、人が主に立ち返るなら、いつでもその覆いは除かれます。主は御霊です。そして、主の御霊がおられるところには自由があります。」

そしてすばらしい約束がここにありますね。「永久に死を呑み込まれる」と言われるのです。神は、初めにキリストを死者の中から生き返らせることによって、死の滅ぼしの働きを開始されました。それから、キリストにつく者がよみがえり、彼らも朽ちない体を着るので死にません。それから、コリント第一 15 章 26 節に、「最後の敵として滅ぼされるのは、死です。」とあります。新しい天と新しい地において、全被造物にも死がない状態とされます。

さらに、主なる神が「すべての顔から涙をぬぐい取」ってくださると約束されています。なぜなら、死が私たちに悲しみと涙をもたらすからです。元々、人は死ぬようには造られていませんでした。生きているのに死ななければいけないという不条理があります。これは罪がもたらしたものです。しかし、神は最終的に取り除いてくださいます。「黙 21:4 神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しみもない。以前のものが過ぎ去ったからである。」

そして、「全地の上からご自分の民の恥辱を取り除かれる」とあります。これは、主に選ばれた民、ユダヤ人たちに対する言葉です。神を信じるユダヤ人がこれまで、神を敬わない者たちから

誹りを受けていました。しかし、それがここでは取り除かれます。私たち異邦人も、キリストを信じていれば誹りを受けず。しかし、かの日に取り除かれます。先に話したイエス様の説教にも、「マタ 5:12 喜びなさい。大いに喜びなさい。天においてあなたがたの報いは大きいのですから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々は同じように迫害したのです。」とあります。神の国において、信じて報われる時がやってくるのです。

¹⁰ 主の手がこの山にとどまるとき、モアブはそこで踏みつけられる。藁が汚水の中で踏みつけられるように。¹¹ 泳ぐ人が泳ごうとして手を伸ばすように、モアブはその中で手を伸ばす。しかし主は、その手の巧みさも、その高ぶりも低くされる。¹² おまえの要塞、そそり立つ城壁を 主は引き倒して、低くし、地に投げつけて、ちりにまでされる。

モアブは、シオンの山、エルサレムの東、死海の東にある国です。イスラエルの国にモアブは隣接しているのですが、「自分は大丈夫だ」とする高ぶりによってキリストを認めなければ、たとえ近くにしようと、その救いに預かれないことをここでは教えています。

ここは、はっきりしています。神の御国には至福があるのですが、キリストを認めない者たちは、その近くにいっても悶え苦しみます。ラザロと金持ちの話でも、金持ちはハデスで苦しみのところで悶えていながら、慰めのところにいるアブラハムに語ることができました。けれども、その間には大きな淵があり、行き来ができません(ルカ 16:26)。そして、新天新地においても、不信心な者は外に追い出されるとはっきりと語られています(黙示 22:15)。

こうして、地上に対する大患難の後に、御国が建てられ、祝宴が開かれる幻を見ました。御国は永遠に死を滅ぼし、涙を拭い去る慰めを与えます。しかし、不信者はその慰めを見ても、自分たちは苦しみ続けるのです。